

【ウ 様式1-(3) 実施計画書】

令和6年度 「青少年の主体的な活動支援事業」

C「青少年の居場所応援事業」実施計画書 記載例

団体名	青少年育成島根県民会議	団体の長	島根 太郎
団体住所	〒690-8501 島根県松江市殿町1番地 健康福祉部青少年家庭課内		
連絡先(電話番号)	0852-22-6255	連絡先(メールアドレス)	nobinobi@shimane-youth.gr.jp
担当者名	〇〇 〇〇	担当者連絡先(電話番号)	0852-□□-△△△△

事業内容			
------	--	--	--

1 居場所利用者の年齢区分（前年度実績）

年齢区分	18歳 未満	18歳 以上 ～ 29歳 未満	29歳 以上
実人数/延べ人数	10名 / 100名	5名 / 60名	0名 / 0名

2 過去3年間の活動

※「主な活動」には、①～⑤のうち行っている活動の番号を左から主たる順に記入してください。  
⑤その他の場合は、どのような活動か、具体的な活動の概要欄に併せて記載してください。

①子ども（地域）食堂 ②学習支援 ③多世代交流／体験活動・プレーパーク  
④困難を有する子ども・若者支援 ⑤その他

	主な活動	具体的な活動の概要
R5年度	②③④	高校や大学への入学を目標に、学校へ通えない青少年に対して週1回程度の学習支援。遠足（松江城）や施設見学（県立美術館）の体験活動を実施（年2回実施）。
R4年度	②④	高校や大学への入学を目標に、学校へ通えない青少年に対して週1回程度の学習支援。
R3年度	②④	高校や大学への入学を目標に、学校へ通えない青少年に対して週1回程度の学習支援。

3 本年度、助成を受けた場合、どのようなこと（活動や設備等）に使い、充実させたいと考えているか記入してください。

活動回数、設備等を可能な範囲で、数値化してください。  
『活動に必要な十分な設備等があることを100点として、現在の状況、助成後の状況を点数で記入する』など

①学習教材の補充  
新たな学習教材を購入し、一人一人の状況に合った教材をそろえたいと考えている。  
昨年度に高校を卒業したが、進学や就職できていない青年もいるので、その青年たちが進学や就職に向けて学習できる教材を増やしたい。教材については検討中。  
必要と考える教材100点に対して、現有教材数は60点。助成により70点まで増やせる。

②体験活動実施の回数を増やす  
年2回だった体験活動の回数を3回に増やし、昨年度より多くの体験ができるようにしたい。  
夏のキャンプ実施を考えており、その備品購入（火起こし道具）に利用する予定。必要と考える道具100点に対して、現有数80点。助成により100点にできる。

4 その他アピールしたい点を3つ箇条書きで記載してください。

また、その内容を簡単に記載してください。

○学校へ通えない青少年への学習支援。

学習支援を行っている地域には、他にも学習支援を行っている団体はあるが、学校へ通えない青少年に焦点をあてた団体は、他にはなく……。

○利用者の増加。

本団体の活動が地域に広がり、周知されてきた。そのため、……。

○課題として、支援の回数を増やしたいと考えているが、ボランティアで携わってくださる方がおられず……

5 参考となる添付資料（A4／1枚程度）

○昨年度の広報用チラシを添付。

※ A4で2枚に収まるように記入してください。